

第 47 期（2025 年度） 第 4 回講演会 開催報告

開催日時：2026 年 3 月 13 日（金）13:00～14:30

開催場所：熊本城ホール/ B 会場、約 25 名の参加

講師および演題：

「国際機関における運転経験反映活動について」

片岡 一芳氏（原子力規制庁 主任検査監視官）

【講演概要】

国際機関（IAEA、OECD/NEAなど）は、原子力施設における運転経験から得られた教訓を収集・分析・共有するための枠組みを運用している。IRS（事故・故障報告制度）などの仕組みを通じて、加盟国は事象を報告し、運転経験を相互に共有している。

日本の原子力規制委員会は、IRSの情報を含む国内外の運転経験をレビューし、得られた知見を規制検査や原子力安全性向上のための取組に反映させている。

講演では特に、運転経験を共有するための複数のプログラムの位置付けや役割の違い、ならびに規制庁における活用方法について、国の担当としてこれらのプログラムを推進してきた経験を交えながらご紹介いただいた。

【質疑応答】

Q1：IAEA の主な活動として保障措置（Safeguards）が大きな役割の一つであるが、片岡さんはその活動にも関わっている立場なのか？

回答：関わっていない。

Q2：National Coordinator は各国一人が参加しているとのことであるが、規制当局の人が参加しているのか？産業界の人が参加すると話がしにくいように思う。

回答：規制側の人のみが参加している。

Q3：現在建設されている原子炉はほぼ中国やロシアとなるが、運転経験の報告もそれに従って多くなっているのか？

回答：ロシア、中国共に報告はある。ロシアは政治的な情勢から NEA には不参加である。IRS への報告に関してロシアは経済的な視点からの報告が多く、中国は質の向上が期待される一方で WANO（World Association of Nuclear Operators（世界原子力発電事業者協会））への関与が積極的な様子

Q4：再処理は日本とフランスしか実施していないので、情報はその 2 か国からしか出てこないということか？

回答：そのとおり。ただし、フランスからはなかなか情報が出てこない。（情報を共有するかは当該国の担当者の判断）

Q5：廃棄物処分の話は含まれるのか？それとも静的な事象であるため報告は無いのか？

回答：今までは報告はあまり出てきていない。

Q6：JAEA の様な研究機関における事象は公開されているのか？

回答：JAEA のホームページには不適合事象が掲載されているが、それらは規制庁に報告するような案件はない。法令報告とそれらは別物である。

Q7：NEA でも同様のことをやっているのであれば IAEA でやる必要は無いのでは？

回答：NEA の対応者は、原則、IAEA の対応者でもある。IAEA には、OECD 加盟国以外にも参加している。原子力発電所の報告事象例が多いので NEA と IAEA とで年 2 回開催しないと処理しきれない。

Q8：規制庁は国際基準を踏まえて規制に反映することが法の中で触れられており、運転経験の共有も同様の位置付けで共有されていると考えるが他国においてもそのような傾向はあるのか？

回答：IAEA からは原子力安全のため、原子力施設への運転経験の共有・反映が強く求められており、基本的には反映はされている。ただ、対応の早さや熱心さは国によってばらつきがあるかもしれない。

Q9：世界から多くの情報が集約されることとなるが国内の（人的な）リソースや AI 利用などは進んでいるのか？

回答：人的なリソースは豊富ではないかもしれない。AI 利用は各ナショナルコーディネータでばらつきはあると思うが、片岡氏は積極的に使用している。

Q10：日本は定検作業項目が多く定検従事者の被ばく量が多いとのことであるが、被ばく量と不適合事象発生件数との相関はあるか？

回答：そのような視点で評価したことは無い。ただ、日本は分解点検を丁寧に行うのに対し、海外は不具合が発生するまで分解しないなど、考え方の違いがある。

以上